大西脳神経外科病院だより　第 12号

ぶれいん

発行日:平成18年2月10日
発行人：学術図書委員会
発行責任者：大西　英之
編集責任者：吉野　孝広

大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊重した医療を実践する。
神経疾患の専門的高度医療を実践する。
常に新しい医学の修得に励む。
救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。
地域の医療機関との連携を密にし、地域協力型の医療を志向する

新年のご挨拶　　院長　大西　英之

新年あけまして
おめでとうございます。

おかげさまで当院は2000年の12月に開院して以来、5周年を迎えました。これもひとえに地域の皆様のお引き立ての賜ものと深く感謝申し上げます。さて、当院は開院以来、地域の皆様の厚いご信頼を頂き、毎年1万人近くの方が新たに受診しています。また、救急医療においては、明石市の救急基幹病院の指定を頂き、脳神経外科学会においても、認定専門医訓練施設としての指定を受けました。さらに、昨年は日本医療機能評価機構と日本脳卒中学会の認定病院となり、当院はこの5年間で、名実共に東播磨地域の急性期脳卒中病院としての役割を果たしつつあると自負しております。しかし、このことは、当院の東播磨地域における脳卒中医療への役割、つまり責任の大きさのあらわれと思い、一層気が引き締まる思いがいたします。

脳卒中医療の向上は一病院がすべてをになうのではない、地域の医療機関全体での取り組みが不可欠である。

昨年の「オーズニュース」でもたびたび触れました通り、脳卒中医療の向上は一病院がすべてをになうものではありません。急性期からリハビリ、慢性期の療養に至るまで、地域の医療機関全体での取り組みが不可欠だと考えます。この意味で、東播磨地域の病院、診療所の先生方には昨年も大変お世話になって参りましたが、今年も昨年同様、地域医療連携をお願いいたしたく存じ上げます。当院といたしましても、日々の診療はもちろん、東播磨脳卒中フォーラム、地域医療連携懇話会などの取り組みを通して、より地域の脳卒中医療向上に貢献できる病院作りを進めて参る所存です。地域の先生方、患者様よりの叱咤激励を心よりお待ち申し上げます。

末筆になりましたが、患者様、診療所・病院の先生方のご健勝ご多幸をお祈りいたします。今年も大西脳神経外科病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

五つの心を忘れずに　　副院長　垰本　勝司

素直、反省、謙虚、奉仕、感謝の五つの心を忘れずに！

長い間、脳腫瘍ばかり見てきた極めて偏った脳外科医が、果たして第一線の救急病院で務まるだろうかという不安な気持ちで当院にお世話になって丁度一年が過ぎました。今までにない充実感を覚え、且つ楽しい毎日であったことは何よりの喜びです。それは院長以下この病院で医療に携わる全ての人が同じ方向を向いて一生懸命頑張っている心意気を感じながら仕事に従事できたからに他なりません。一年を振り返って、患者さんの多さに驚くと同時に、その後の状態を把握する必要性を痛感しています。

2006年はこれ迄当院で治療を受けられた患者さんの追跡調査に力を注ぎたいと思っています。そして昨年夏から開始した脳梗塞急性期の患者さんの血小板機能に関する臨床研究もまとめて、当院から新しい情報が発信できるよう皆と協力して頑張るつもりです。素直、反省、謙虚、奉仕、感謝の五つの心を忘れず、当院での自分の役割を果たしてゆきたいと思っています。

K・Y（危険予知）」　　事務部長　植田　惇彦

2006年は年初早々の明石市健康福祉事務所による立入検査で慌ただしくスタートし、間も無く1月を終えようとしています。2月4日(土曜日)には創立5周年記念式典を予定しており、その後の「DPC参画」と「医療法人化」等の重要課題もあり、今年も例年通り多忙な一年になると思います。

かねがね思っていたことを「大西脳神経外科だより第12号」を借りて取り上げます。品質管理又は安全管理の手法で重要な用語に**「K・Y(ケーワイ)」**があります。これは英語ではなくれっきとした日本語の頭文字をアルファベットで表したもので特に難しい言葉ではありません。

K(危険KikenのKケー)とY(予知YochiのYワイ)です。

自動車教習学校で運転免許を持っている方は誰でも経験がある様に「これからどんな危険があるか予測して下さい。」と言った内容の講義があります。

「交差点で自分が車で右折しようとしている時にどんな危険があるか？」

①前方の直進車の裏から歩行者が飛び出して来る。
②前方の左折車の陰から歩行者が飛び出して来る。
③前方の左折車の後から直進車が走って来る。
④前方の直進車が急に右折しようとする。
⑤前方の右折車が急に直進しようとする。

等々、まだまだ予測されることはありそうです。

この様に、「多くの危険を予測しどれが起ころうとも事前に予測して対処する。」こと、または「将来の危険を予測し事前に危険の芽を取り除いておく。」ことが**「K・Y(ケーワイ：危険予知)」**です。

以前、当院の職員が外部物置の前の排水溝に足を取られ、転倒して足首を捻挫したことがありました。(事故に遭われた方には本当に申し訳なかったと思っています。)

ご本人は自分の不注意をしきりに反省していましたが、本当の原因は「人が歩く通路に沿って排水溝がある。」ことであり、「これに蓋をしなければ何時かこのような事件は起きる。」と**「K・Y(ケーワイ)」**はできていたのに、放置していたことなのです。この事故のあと、直ちに排水溝に蓋を設け更に蓋の上にすべり止めのマットを敷きましたが、「事故が起こる前に何故出来なかったか」と悔まれます。

別の件では、職員が不要針を直ちに廃棄せずに仮置きしました。　何故こんなことが行われたのか？

「患者さまを処置中に不要針が発生し、緊急避難的に不要針を仮置きして患者さまの処置を急いだ、その後何らかの理由で不要針を取り除くことができなかった」と思われます。不幸にもこの針に別の職員が手を触れて「針刺し事故」が発生しました。事故に遭った人は自分の不注意をしきりに反省していましたが、「不要針を放置していた」ことが根本原因なのです。不要針を放置すれば確率は低くても事故は起こり得るのですから、「何よりもまず不要針を廃棄」していれば事故は防げたと思います。

病院内で事故はめったに起こらないものです、しかしこれらの例でも判る様に僅かな確率の蓄積から悪条件が重なると思いがけなく突然事故は起こります。「よもやこんなことで事故が起こるとは思わなかった。」事故が起こったときに当事者も関係者の皆が思うことです。しかし、事

K・Y(危険予知)を職場に定着させましょう。

故は起こってしまった。1件毎は僅かな確率でも職場に多くの危険が潜んでいませんか?

これを根絶するには個々人の「K・Y(ケーワイ)」の地道な積み上げが不可欠であると思います。

また、不幸にして事故が起こった時には「隠さず報告すること」と「迅速な原因分析と対策実施」と「問題の共有化による再発防止」等を推進する『組織力』これが職場の底力となります。決して事故に遭った人や原因を作った人の個人攻撃をしてはいけません。これを繰り返すと活動は一気に沈滞化します。

「不注意」と「マニュアル違反」の底に潜む真の原因は何か? これを突き止めて根本から直せれば職場に潜む危険は大幅に減ると思います。

当院の医療安全と安全衛生への取り組みも着実に成果を挙げてきています。

「患者さまのため」、「自分のため」、「職場の仲間のため」に「K・Y」を職場に定着させて一層の『安全』を実現しましょう。

尚、今回勝手に2件の事故例を使わせていただきましたが関係各位には御理解を賜ります様お願い致します。

本年も頑張りますので、よろしくお願い致します。

今、思うこと　　看護部長　金川　雅子

昨年一年間(H17.1.1～12.31)を振り返った時、病院の稼動上昇は著しく、在院日数は12日を切り、OP件数は600件を超え、ベッド稼動も90%を下ることがなくなり、一日の入退院者が、多い時には20人を超えてきております。一口に20人と言っても、当然それぞれの方がそれぞれの思いをお持ちです。手術を控えておられる方は勿論、退院をされる方も不安と恐怖、あるいは、いろいろな心配事を抱えておられます。これら個々の方々の「意に添って」接していく看護師の気苦労には計り知れないものがあります。

また、脳外科の急性期では、重症度の高い看護ケアーが求められます。OP件数600件からも術前術後の看護も必須ですし、予断を許さない看護判断が常に求められています。このような看護場面のみではなく、82床という限られた病床を患者さまの病状に合わせて稼動して行く為には、患者さまの病室移動が生じてきます。

お一人をお受けするのに数名の方の移動が生じてくる事も稀ではありません。また、病床によっては差額が伴い、説明をさせて頂いた上に納得頂き、承諾書を頂くわけで、ひたすら説明とお願いで、転室をして頂きます。現場では、このような作業も日常的に起こっております。

また、繁雑で多忙な事から、目前の処置や業務に追われ、ややもすると記録が滞り、時間外での記録となってしまったり、退院カルテの整理が追いつかない事もあります。この事態を改善すべく、他職種の方々への協力をお願いしたり、看護師確保に努力をする一方、今一度、足元を見直し、看護本来業務に整理をしていきたいと、考えております。

近い将来、全国的な18歳人口の減少に伴い、更なる看護師不足が予想されます。診療報酬では、まだ他職種導入についての評価がなされておりませんが、幸い、院長の理解と協力も得られ、このたび新しく介護福祉士の採用も許可頂く事となりました。ただ、現場ではすでに、看護師に加え、看護助手、病棟秘書が、協働していることから、これらの職種との業務内容を合わせての検討が必要となってきます。

「新しい職種を入れていくには、きちっとレールを引いて、ダイヤを組んで‥」と、いう宿題も頂いております。今年は、この宿題に向かって、協力を得ながら、業務の見直しと、整理を行い、ゆとりの看護ができる日が一日も早く来ることを楽しみに頑張っていきたいと思っております。

このような繁雑な中にも関らず、いつも感心し感謝している事は、患者さまからの評価と研究発表への取り組みです。患者さまのアンケートでは、100点満点中88点という高い評価を頂き、ご意見箱へのお礼や感謝の言葉も多く頂いております。また、研究発表では、年々のレベルアップと共に「いつの間に」と、いつも驚かされます。これはひとえに現場職員の質の高さと頑張りの評価であり、大変誇りに思うところです。今年も大変なこととは思いますが是非ご理解頂き、ご協力頂きますよう、よろしくお願いいたします。

現場職員の質の高さと頑張りを大変誇りに思います。

業務の効率化を　　副看護部長　木村　ひとみ

開院から5年間で患者は急増し、昨年度外来患者数は1日平均200人となり、手術件数は一年間で600件を超えました。

日々の業務に追われ慌しく毎日が過ぎて行きます。患者数が増加することはうれしい事ではありますがその反面問題も生じています。6年目を迎える今年は、ゆとりを持って看護が出来ることを目指します。

そのためには、業務改善を行い、他部門との調整を図り業務の効率化を図りたいと思います。そして少しでも患者様の声に耳を傾け満足して頂けるような看護を提供します。

今年も宜しくお願いします。

ゆとりの看護　　副看護部長　上原　かおる

年々増加する入退院患者数、どんどん短縮する平均在院日数、ますます増える手術件数の中、慌しい毎日を送っています。

看護部職員は、「看護とは?」と考える余裕もなく、ただひたすらがんばっているという日々です。このような現状においては、患者さまだけでなく、職員にとっても安心して働ける職場環境を整えることが急務であると考えています。

そこで、開院6年目を迎える今年は「ゆとりの看護」を目指して、看護部の業務整理および改善と新たな職種の導入に取り組んでいきたいと思います。それに加え、当院が担うべき脳神経外科看護についても追究していきたいと考えています。

基本からの見直し　　薬剤部長　吉田　善子

明けましておめでとうございます

薬剤部は、昨年メンバーが一新され、色々な業務改善を行いそれなりに成果を収めることが出来ました。

今年は「より効率の良い業務改善(特に服薬指導)を行う事」を目標として、医療過誤に注意し、初心に戻って基本から業務の見直しを行い、更には他部署と連携を取り、患者様や病院にとって無くてはならない薬剤部になることができるように努力しようと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。

チャレンジ　　事務部　参与　岡田　惇也

60を過ぎた医療技術資格のない男が病院で働いていて他人様に語る抱負もないので辞退したかったが、編集者の「個人的なことでもいい」の言葉で抱負を綴ることにする。

3年前の入職時に比べて、医療機器もPCも医療材料購入も増え、それに伴って発注・故障修理・管理の業務も段違いに増えた。院長からの各種数表の作成指示も増えた。したがって、第1の抱負はより一層の仕事の効率化を図って早く帰宅したいである。院内LANの管理は素人仕事でこなしているが、プロの仕事をするために「初級シスアド」秋期試験にチャレンジしてみよう。 以下、プライベートな抱負。年をとってから何か新しいことを始めたくなっている(老い先短い焦りか?)。去年はオペラ鑑賞と健康ジム通いとヤフー・オークションであった。今年は?突然の思いつきで物事を始めるのが常なので今はまだ分からない。決まっているのは映画50本、西語検定3級受検である。

明石の風景　　医師　市岡　従道

向かって左が市岡先生、右が富永先生です。宜しくお願いします。

平成17年9月からお世話になっています。脳神経外科の市岡です。それまでは大阪府高槻市にある大阪医科大学で勤務していました。大西脳神経外科病院へは大学医局からの派遣という形ですが、希望者の多い中での幸運に恵まれました。沢山の症例の中、びっくりするような忙しさに追われている現状ですが、学ぶことが非常に多く、もっと頑張らねばと考えています。大阪府でも、京都寄りの高槻市に生まれ育った私は、兵庫県は今までにあまり馴染みが無かったのですが、明石に住んでみて気に入っているのは、風景がきれいな事です。特に瀬戸内海の海岸線が広がっているところが素晴らしいと思います。という訳で、休みの日によく海沿いに出掛けています。簡単な自己紹介ですが、これから宜しくお願いします。

患者様と供に考え　　医師　富永　貴志

明けましておめでとうございます。
昨年の10月から当院へ就職しました富永貴志と申します。出身は広島ですが、これまで山口大学に所属しており、山口、横浜、沖縄、小倉で脳神経外科を診療してまいりました。　ご挨拶と、年始にあたり今年の抱負も含めて一言書かせて頂きたいと思います。脳卒中の「予防・治療」について考えますと、」脳卒中は生活習慣病といった「リスクファクター」の管理が非常に重要となります、当然「くすり」による治療も必要なのですが、生活習慣病はその名の通り生活習慣を見直すことが最も重要となります。「悪いものは根元から断て」と言ったところです。ただ、「予防」するといっても患者様それぞれで「方針」は違ってきます。ですから1つはこの事に留意して、患者様と供に考え、患者様と供に治療して行くという事を実践していきたいと考えています。
若輩者ではありますが、今年も宜しくお願い致します。

未熟さを痛感しながら　　看護師　山崎　智子

今まで、外来・手術室での看護は経験してきましたが、病棟での看護は経験がなく、今回が初めてになります。病院に勤務し始めて1ヶ月が経ちますが、日々の業務の中で、知識・技術ともに未熟さを痛感することばかりが目立つ毎日です。毎日感じる、自分の未熟さを受け止めて、日々の看護に生かしていけるよう、これから頑張っていきたいです。そのためにも、1日でも早く病院の環境に慣れて、脳外科で看護を必要とする患者さんの特徴を知り、知識・技術ともに深めていきたいです。

海が大好きです　　看護師　松村　ふみ

みなさんはじめまして、
私の名前は松村ふみです。大西脳神経外科病院で働き始めて9ヶ月になります。今年の抱負（やりたいこと）ですが、海に行きたいです。日本だけでなく、沢山の国の海を見たいです。　　☆私は海が大好きです☆
自然に多く触れたいです。緑を見たり、星や月を眺めたり、美しいものに触れたいです。後は、美味しいものを食べたいです。美江さん、一緒にご飯を食べに行きましょう！
こんな感じで、今年もやりたい放題やります。
お父さん、お母さんゴメンナサイ。

栄養管理の重要性を　　栄養管理室　主任　森川　香

開院準備から5年4ヶ月、無我夢中でここまで辿り着きました。気がつけば古株になっていた自分･･･月日だけがいたずらに過ぎたようで、中身は成長したのかどうか怪しいなぁと反省することしきりの今日この頃。

今年は中身の成長を目に見える形で残したいと考えています。仕事では、患者様にとってよりよい栄養管理を実施できるようNSTを本格的に稼動させ、職員にも栄養管理の重要性を発信していきたいと思います。個人的には「栄養サポートチーム専門療法士」の資格取得を目標にしています。

プライベートではサッカーの応援に力を入れたいと思っています。6月のワールドカップもありますし、子供の少年サッカーも忙しくなりそうで、今年はサッカー三昧の予定です。まずは3月の県大会で優勝目指して頑張るぞ！（親バカ応援団）

スタッフに感謝　　臨床検査室　主任　住友　泉

私が大西脳神経外科病院で働きはじめて、一年が過ぎました。

私が就職した昨年の冬は当院の来院患者が飛躍的に増加し、それに伴い検査依頼件数も急激に増加した時期にあたります。当検査室スタッフの大きな入れ替わりが重なり、業務全体の把握や環境に慣れる以前に、とにかくその日その日の検査依頼を黙々とこなすことが優先で、その過程で徐々に当院のルールや仕組みを理解していったという状況でした。そのことで当初は患者様や、他のスタッフに迷惑をかけたこともあったのではないかと思います。

後の検査や診察時間に遅れないようにと焦る気持ちが先に立ち、時間に押されるあまり、検査にミスが生じないか、事故が起こらないかといつも不安でしたが、この一年どうにかこうにかやってこられたのは病院スタッフ皆さんの協力と、なにより臨床検査技師全員のチームワークとフットワークによるものが大きいと思います。就職して早々に私が未熟なまま主任というポジションで右往左往するなか、他の技師三人が皆、非常に協力的に動き、助け合い、支えてくれました。検査室のスタッフにとても感謝しています。

この一年を振り返ってみて、患者様にもっと親切な対応をすべきではなかったか、主体が患者さまでなく業務の都合優先にしているのではないかと思うようなことがありました。

そんな時に私はいつも思い出す言葉があります。それは私が初めて臨床検査技師として病院で働き始めた時、そこの院長先生が新入職員に向けた言葉の一つで、「全ての患者さんをあなたの大切なご家族と思って仕事に従事しなさい」という言葉です。

この言葉はとても分かりやすくシンプルに医療に携わる全ての者の心構えをあらわしていると思います。確かに多忙でも疲れていても対応している患者さまが大切な人であったなら、気を抜かないしいい加減な仕事はしないものです。

患者さまに接するとき、検査をするとき、ふとやり甲斐を見失ったとき、この言葉を思い出すようにしていますが、昨年はやや忙殺されがちだったと反省しています。

来年はこの言葉を忘れないよういっそう心がけて仕事に取り組んでいきたいと思います。

チームワークと
フットワーク！
スタッフに感謝

職場の潤滑剤となれ　医事課　課長　川中　雅彦

平成18年は2年に1回の医療改訂、DPC認定病院の前段階の調査協力病院への申請と医事課の役割が重要な年であると感じております。

医療改訂は、マイナス改訂であるといわれておりますが、情報収集が大事で色々な病院と連絡を密に、頑張ります。調査協力病院への申請は、システムの対応、院内での協力を得られるようにしていく必要があると感じております。私の病院勤務の最初に教わった「事務員は他の職場の潤滑剤となれ。」が今年最も重要であると思います。本年も宜しくお願いします。

ジャンプアップするために　放射線検査室　技師　伊藤　圭祐

平成17年は、検査数の増加とともに、検査のバリエーションも多くなり、体力面だけではなく技術面においても高い水準を求められるようになりました。新しいことにチャレンジしていくことで、放射線検査室のレベルも着実に上がっていっていると思います。しかし、平凡なミスをしてしまうこともありました。新しいことを覚えるのに夢中になってしまい、今まで出来ていたことが出来なくなったり･･･基礎の部分がおろそかになっていたように感じています。

平成18年は、基礎の部分を固め直したいと思います。今までは前ばかり見ていて、振り返ることはほとんどありませんでしたので、これがいい機会だと思い、基礎の再確認を徹底したいと考えています。

また、昨年からリハビリテーション科、臨床検査科、放射線検査室が中心となって勉強会を開催しています。新しい知識の習得の場として、また自身の知識の確認の場として、頑張っていきたいと思っています。来年以降大きくジャンプアップするために、今年はその礎をより強固なものにすべく放射線検査室一同頑張ります。

風林火山　地域医療連携室　主任　越智　信成

今年は入職して3年目になります。医療相談も地域医療連携も親切丁寧をモットーに、風林火山のごとく冷静沈着な仕事を心がけてまいります。病棟、医務部の方々にはなお一層の連携をお願いしたく思います。色々とご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

一年の始まりにあたって　言語療法室　主任　寺田　博子

また新しい年が巡ってきました。
年賀状に目を通していると、しばらく音信のなかった友人からの一枚。読むうちに若い頃のその人との会話がよみがえってきました。数十年来、平家物語の研究を続けている彼がまだ駆け出しの頃私にこう言ったのです。
「あのね、平家物語には人間は明日死ぬかもしれないということだけが書かれているんだ。」

この説の真偽の程はともかく、人生の折り返し地点を過ぎた今の私には妙に寄り添う言葉として思い出されたのでした。
「明日死ぬかもしれない」ということは、考えれば強い恐怖となり心がかき乱されます。けれども逆に恐怖だからこそ、その時々をいとおしんで生きることが大事なのかもしれません。

この一年悲喜交々の日々でしょうが、公私共によく感じ且つよく考えながら過ごしたいと思います。皆様よろしくご指導をお願いいたします。

流れを読むこと　　理学療法室　技師長　吉野　孝広

流れを読むことは仕事をする上で非常に重要です。治療をする場合、疾病回復の流れを読むことで治療プログラム立案と予後予測が可能となるからです。しかし一旦流れを読み違えると修正は困難になります。

的確に流れを読むにはそれに裏打された技術と知識そして何よりも経験が重要なことは言うまでもないでしょう。

今年大きな診療報酬改定があり、リハビリテーション関係も厳しい状況となります、流れを読み現状を見極め最良の形で医療が提供できるよう準備をしなくてはなりません。

出来ることはなんでしょうか、やはり知識と技術の向上でしかないはずです。流れを読むための礎は日々の研鑽であり、新しいことに取り組むためにも日々勉強を心掛けたいと思います。今年もリハビリテーション科を宜しくお願いします。

関心　　節分と巻き寿司

節分っていったいいつ頃から始まったの
何故巻き寿司を食べるの･･･

節分は、季節の分かれ目の意味で、元々は「立春」「立夏」「立秋」「立冬」のそれぞれの前日をさしていました。

節分が特に立春の前日をさすようになった由来は、冬から春になる時期を一年の境とし、現在の大晦日と同じように考えられていたためだと言うことです。

豆をまくことは「追儺」(ついな)と呼び、中国から伝わった風習で、俗に「鬼やらい」「なやらい」「鬼走り」等と呼ばれ、疫病などをもたらす悪い鬼を追い払う儀式で、今から約1300年前、文武天皇時代に宮中で初めて行われたそうです。

鰯(いわし)の頭を、柊(ひいらぎ)の小枝に刺して戸口に挿す風習は、近世以降行われるようになったもので、これも魔除けのためだそうです。

「恵方を向いて太巻きを食べる(丸かぶり)」は太巻きの中のキュウリを“青鬼”、生姜や人参を“赤鬼”に見立て、節分に鬼をやっつけてしまう･･･という意味があります。ちなみに恵方(えほう)とはその年の吉神が鎮座している方角を言い、2006年は南南東の方角です。巻き寿司を使うのは、「福を巻き込む」からで、丸かぶりする理由は「縁を切らないために包丁を入れない」ということになったようです。

もともと主に関西地方で行われていたものでしたが、大阪海苔問屋協同組合が道頓堀で行った「巻き寿司のまるかぶり」の行事をマスコミが取り上げ、それを見た全国の食品メーカーが便乗し全国へ広まっていったそうです。

編集後記

新年の挨拶を、抱負を交えて各部署から書いて頂いたが、なんだか2月。

お正月気分は1月1日から既にないもののせっかくの新年号、1月中に出せなかったことで院長に「貸しだな」と言われ…　院長への貸しっていったい何して返すんだろうと、訳のわからないことを考えてしまった。

今年こそは、きっちり春夏秋冬と4号出せるように準備をして行きたいと思います(前にも同じようなことを言っていた気もするが･･･)。

また原稿や写真撮影をお願いすると思いますが、多少の迷惑には目をつぶっていただいて、皆様のご協力、お願い申し上げます。　　(吉野)